

防府市向島地域における防災教育の取組みと 受講者にみる防災意識の変化

徳山工業高等専門学校 正会員 ○目山 直樹
徳山工業高等専門学校 学生会員 後藤 晃徳
ケー・シー・エス 正会員 野口 和孝
前田道路 非会員 岡村 知季

1. はじめに

(1) 研究の背景

山口県防府市向島地域は、防府市の南部、瀬戸内海に浮かぶ面積8km²、周囲約16kmの小島である。本州側とは中関水道をはさんで錦橋（橋長21.6m）で結ばれ、住民の日常的な往来を可能にしている。

現在、地域住民は約1500人で、地域組織は7つの自治会がある。小学校は1校、中学生は本土側に通学する。

防災上の課題として、集落域が沿岸部にあるため、高潮等の災害時は浸水被害が想定される。過去の台風等で公共施設（小学校・公民館など）の浸水や基幹道路（県道防府停車場向島線など）が冠水する経験を持っており、防災意識は決して低くない状況にある。

(2) 研究の目的

本稿は、防府市向島地域を対象として、平成24年度に実施した種々の防災教育を通じ、地域住民の防災意識の変化を考察し、防災教育を通じた防災まちづくりの手法に寄与することを目的とする。

(3) 研究の方法

研究の方法は、防災教育受講者に対するアンケート調査により、受講前後の比較や防災訓練への参加状況に着目して意識の変化を探るものとする。実施した防災教育は以下の3種類である。

- 1) 向島小学校防災出前授業（理科室、5・6年生24人）
- 2) 総合防災訓練参加者のアンケート調査（回収170名）
- 3) 向島地域防災講演会（向島公民館、受講者37名）

2. 向島小学校での防災出前授業

2012年5月14日の防災出前授業で行った事前・事後アンケート調査では5・6年生24人に配布・回収した。

日時：2012年5月14日 10:00～12:00
対象者：5・6年生 24人 回収数：24票

キーワード 防災、防災教育、避難訓練、アンケート調査、GPS、避難行動

連絡先 〒745-8585 山口県周南市 徳山工業高等専門学校土木建築工学科 TEL0834-29-6334

事前アンケートで、家族と避難場所を決めているものは17%であったが、宿題として1週間後に確認したところ63%が「家族で話し合った」と回答している。

授業で印象に残ったものは、半数が土砂災害の画像と回答している。一方、難しかったものとして、土砂災害のはなしが38%、水害のはなしが33%にのぼっている。

3. 9月1日総合防災訓練参加者へのアンケート

2012年9月1日の総合防災訓練で、向島小学校体育館に集まった人にアンケート票を配布・回収した。

日時：2012年9月1日 10:00～12:00
対象者：参加者292人 回収数：170票 回収率58%

(1) アンケート調査結果の概要

- ①参加者の属性：男性26%、女性57%、未回答が17%。年齢は60代31%、70代以上38%、未回答22%で、60代以上が69%をしめていた。
- ②「災害時の避難場所を決めておく」が前後で40%から66%に上がり、訓練に参加したことで意識が高まった。
- ③「ハザードマップを活用したい人」は56%で、防災訓練に参加しただけではあまり効果は見られなかった。
- ④48%の人が災害時の持ち物の準備が必要だと考えた。
- ⑤83%は東日本大震災が防災意識を高める契機となる。
- ⑥61%の人が自治会長の呼びかけにより、避難情報入手しており、人づてに情報伝達のベースとなる。

(2) 防災意識の変化の考察

避難訓練に参加した人たちはどんな点で意識が変化したのかを男女別、年齢別の点から考察する。

- ①避難場所をきめておくかどうかについて（男女別）

両者とも避難訓練前では決めていない人が50%前後だったが、避難訓練後では決めようと思うという人が女性は70%、男性は60%という結果が出た。女性の

方が意識の変化が大きい。

②災害時の非常持出袋の準備について（男女別）

避難訓練参加前は、両者とも準備しているという人が約40%だったが、防災訓練後では女性の50%が準備したいと回答し、男性の30%を大きく上回っている。

③防災意識の変化について（年齢別）

避難訓練に参加して具体的に防災意識が変わったという回答は、70歳以上、60代、60代以下の順番に多く、年配の方ほど防災意識が高い傾向にある。

4. 向島地域防災講演会

2012年12月15日の防災講演会前後でアンケートに回答いただいた。受講者37人中27票を回収した。

日時：2012年12月15日 10:00～12:00

対象者：受講者37人 回収数：27票 ,回収率：72%

(1) アンケート結果の概要

- ①男性37%, 性56%, 未回答7%で女性参加者が多い。
- ②60代33%,70代以上52%,未回答7%と60代以上が85%をしめており、60代以上の参加が多い。
- ③居住年数5年未満8%,10年以上7%,20年以上4%,30年以上74%と長年向島に住み続けている住民が多い。
- ④小中学生保護者4%, 自治会役員37%, 地域住民33%, その他11%, 未回答15%で、地域の方が7割をしめた。
- ⑤85%が9月1日の総合防災訓練参加者であった。
- ⑥受講前に避難場所を決めている人は59%に過ぎなかったが、受講後は93%が避難場所を決めると答えた。
- ⑦居住地付近に3階建以上の避難場所がない人が85%で、受講後に近くに水害時の避難場所があった方がよいと答えた人は81%であった。
- ⑧受講前、ハザードマップを見たことがある人がすでに92%いた。受講後、ハザードマップを活用したいかという問いに93%が活用したいと回答している。
- ⑨受講前は、非常持ち出し袋を準備している人が48%だったが、受講後は準備したいと回答した人が86%にのぼり、意識の変化が著しい。
- ⑩受講後の防災意識の変化をみると、避難行動について考えるようになったという人が89%（未回答11%）で、受講により防災意識が高まるといえる。

(2) 防災意識の変化の考察

①避難場所をきめておくかどうかについて

防災講演前に決めていると回答したのは、自治会役

員が45%, 地域住民が50%と地域住民の方が少し多かった。防災講演後の回答は、決めておこうと思ったが自治会役員、地域住民ともに100%であった。

②ハザードマップについて

防災講演前に見たことがあると回答したのは、自治会役員が78%, 地域住民が70%だった。防災講演後は活用しようと思うという回答が、両者とも100%であった。

③災害時の持ち物の準備について

防災講演前に準備していると回答したのが、自治会役員が45%, 地域住民が40%だった。防災講演後は自治会役員が100%準備しておきたいと回答し、地域住民の90%が準備しておきたいと回答した。

5. アンケート結果からいえること

防災訓練時と防災講演会でのアンケートでは共通の設問を設けている。その結果を見ると、防災講演会参加後の防災意識の方が高くなっていることがわかる。

その要因は2つ考えられる。1つ目は講演会受講者の中に総合防災訓練に参加したという人が85%もいたことである。防災講演会では防災訓練時の避難行動について、避難開始の遅れや予想した行動との時間のずれなどを示した。結果を数字で示すことにより更なる防災意識の向上につながったと考えられる。

2つ目の要因は参加者の立場である。防災講演会では受講者のほとんどが自治会役員やその地区のリーダーであるため、従前からの防災意識が高く、意識の変化につながったものと考えられる。

謝辞

本研究を行うにあたり、多くの資料、および研究の場を提供いただいた防府市防災危機管理課のみなさま、並びに防府市向島地域の関係者のみなさまに深く感謝の意を記します。また、調査に協力いただいた目山研究室の学生諸君、共同研究相手の(株)ケー・シー・エスの関係者のみなさまに深く感謝の意を表します。

参考文献

- (1) 目山直樹, 岡村知季, 後藤晃徳, 野口和孝:「避難訓練時における避難行動のズレと遅れに関する研究-2012年9月1日 防府市向島での総合防災訓練を通じて-」, 2012年度日本建築学会中国支部研究報告集, 2013年3月, 岡山, 講演番号 1401, CD-R